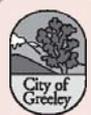
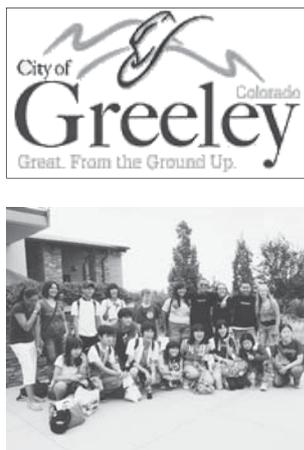


平成24年度守谷市青少年海外派遣事業報告

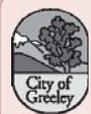
● 問合先 市役所市民協働推進課 協働推進G 内線133

7月27日(金)～8月7日(火)の12日間、市内の中学生・高校生の団員12人が青少年海外派遣団として、姉妹都市であるアメリカ合衆国コロラド州グリーリー市へと派遣されました。これは、次代を担う青少年の国際社会に対する意識と関心を高め、将来において国際協力等に積極的に参加できる人材を育てることを目的としているものです。団員たちはアメリカの文化に触れ、ホームステイを通じて異国の友人との友情を深めました。この経験は、彼らにとつて将来の糧となることでしょう。



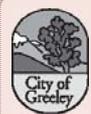
長友芽美さん
(北海道第一高等学校1年)

今回、この派遣事業に参加して本当によかったです。観光で行ったサンフランシスコやラスベガスでは、アメリカのおしゃれな町並みや自然の広大さに感動しました。そして、ホームステイではちゃんとした文法でなくても一生懸命伝える姿勢が大事だと学びました。アメリカで過ごした12日間は私の一生の宝です。こんな経験をさせてくれた皆さんに感謝します。ありがとうございます。



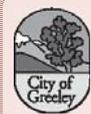
三山泰平さん
(早稲田大学高等学院2年)

このホームステイを通して自分も得たものは何かと聞かれると、正直よく分かりません。ただ、少しだけ自分の価値観は変わってきていると思います。何かやってみようと思ったり、とりあえず進んでみようと思ったり、これらの変化が将来には、大切な変化になっていくように、これからも頑張っていこうと思います。



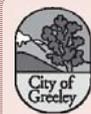
須山魁さん
(土浦日本大学中等教育学校1年)

「アメリカは治安が悪い」とよくいわれていますが、何事もなくホストファミリーと楽しく過ごせました。楽しすぎて日本の家族のことをあまり考えていませんでした。人生を変える経験になったのではないかなと思います。



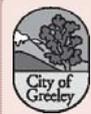
水元優花さん
(常総学院中学校2年)

私はこの12日間とてもいい経験ができました。私が一番楽しかったのは乗馬でした。馬に乗ったときのあの高さは本当に気持ちのいいものでした。そして嬉しかったのは、野球を見に行ったときにファールボールをもらったことです。ホストファミリーの同い年の女の子には、いろいろな店を案内してもらいました。私のアメリカ滞在は本当に楽しかったです。ありがとうございます。



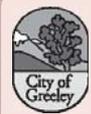
近藤真由さん
(竹園高等学校2年)

12日間のアメリカ派遣は、私にとつてとても意味のあるものとなりました。異文化を受け入れ、他言語ばかりの環境に身を置くということが、私の世界観を広げ、新たな価値観を教えてくれました。また、ホストファミリーから「あなたは家族だから、いつでも戻ってきてね」という言葉を聞いたときには、とても嬉しくて心が温かくなりました。このホストファミリーとの絆をこれからもずっと大切にしていきたいです。



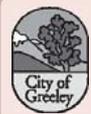
平野皓士さん
(江戸川学園取手高等学校1年)

私にとつて、この海外派遣事業は忘れられないものでした。私は海外旅行をしたことがなかったので、不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーがやさしく接してくれたので、不安なく生活することができました。私はこの経験を生かして、今後の国際交流をしたいと思います。



横瀬彩和子さん
(東洋大学附属牛久高等学校2年)

アメリカでの12日間の生活は本当に楽しいことばかりでした。特にホームステイは行く前に不安になっていたことすら忘れて、もつとアメリカにいたいと思う日々でした。今回のこの事業は、かけがえのないものとなりました。受け入れてくれたホストファミリーや協力してくださった方々、ありがとうございます。



吉井万純さん
(守谷中学校2年)

アメリカでは、毎日がとても新鮮だった。印象に残っているのは、会話だ。片言の英語でも伝えたいという気持ちがあれば相手に伝わるのだと感じた。たくさんの人と出会う中で私も成長できた。忘れられない12日間になった。